

遠隔授業に関するアンケート調査の概要

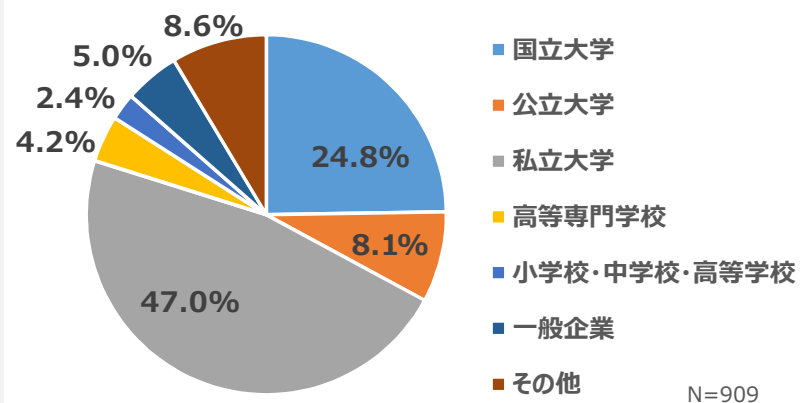
実施日：令和2年8月21日（金）（～9月7日（月）の期間に回答のあったものを集計）

実施方法：令和2年8月21日（金）に行われた第14回「4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム」※の終了後に参加者及びこれまでのシンポジウム参加者を対象にアンケートを実施

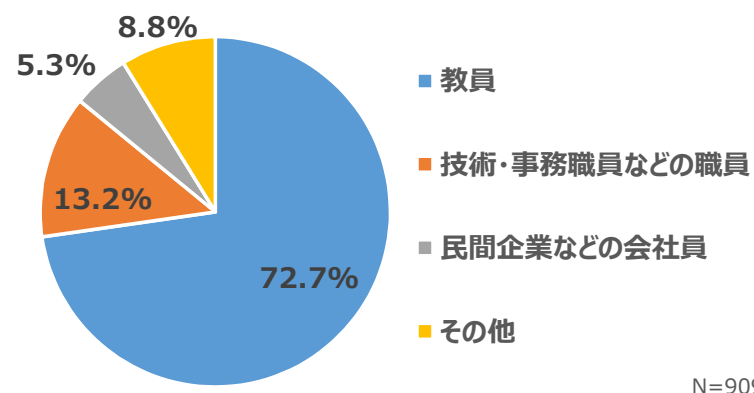
回答数：909件

回答者の所属機関、役職について

問 所属の機関について1つ選択して下さい



問 あなたの役職を教えてください

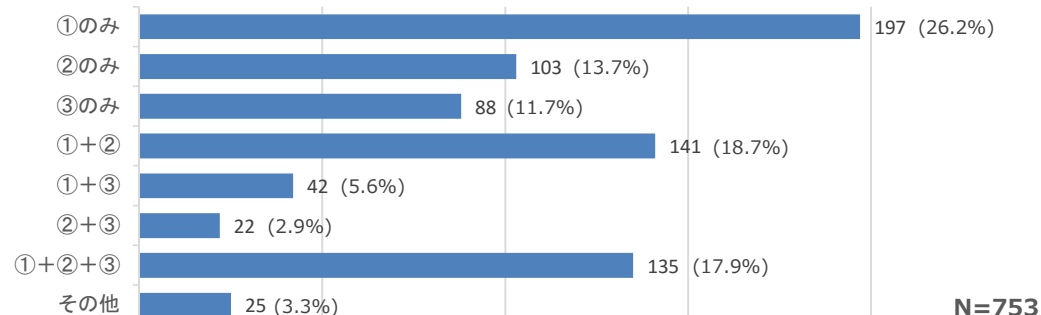


遠隔授業を実施した教員等へのアンケート調査結果①

■ オンライン授業の手法

- ①リアルタイム・双方向型
(ビデオ会議システムなどのツールを利用)
- ②非同期・オンデマンド型
(講義映像などのデジタル教材等を配信して
課題や小テストを実施)
- ③ハイブリッド型
(1つの授業において上記の両方を利用)

問 あなたは、どのような形式でオンライン授業を実施しましたか？ 授業毎に形式が異なる場合は、当てはまるものを複数選択ください。(複数選択可)



■ 教員等からの声（オンライン授業のメリット）

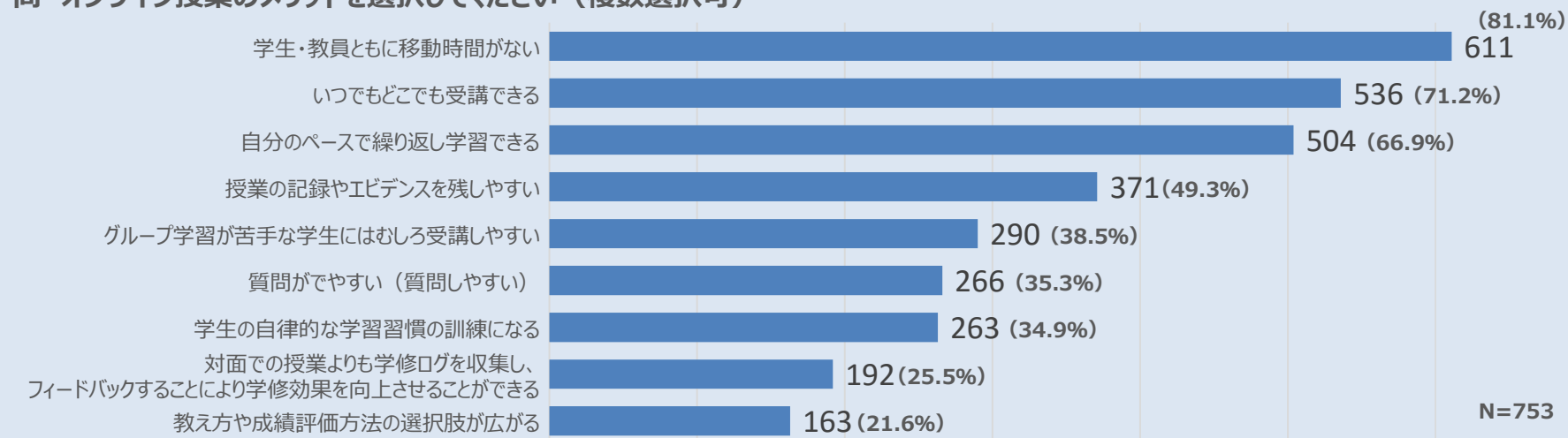
- ✓ リアルタイム・同時双方向授業は、場所の制約がないため、通学列車の遅れの影響を受けず、就活中の学生も電車の中や待合室から出席できるというメリットがある。
- ✓ 非同期・オンデマンド型の授業は、時間的制約がなく、履修者自身のペースで、また、わからないところは何回も繰り返して視聴できるので、理解度を高めることができる。
- ✓ グループディスカッションや、学生同士の画面共有による議論は、オンラインの方が良い。

■ 教員等からの声（オンライン授業のデメリット）

- ✓ コンピュータやソフトウェア、ネットワーク環境が異なるため、同一指導が困難な場面があった。
- ✓ 演習、実習はオンラインでは限界があると感じている。特に、臨地に出向き、第三者とのコミュニケーション等が必要な場合、施設側との調整が可能な場合においても前例がないため、お互いに試行錯誤となる。
- ✓ 学生が理解したか、しなかったかということ以上の反応がわからない。学生が理解できていないちょっとしたことをその場でサポートできない。

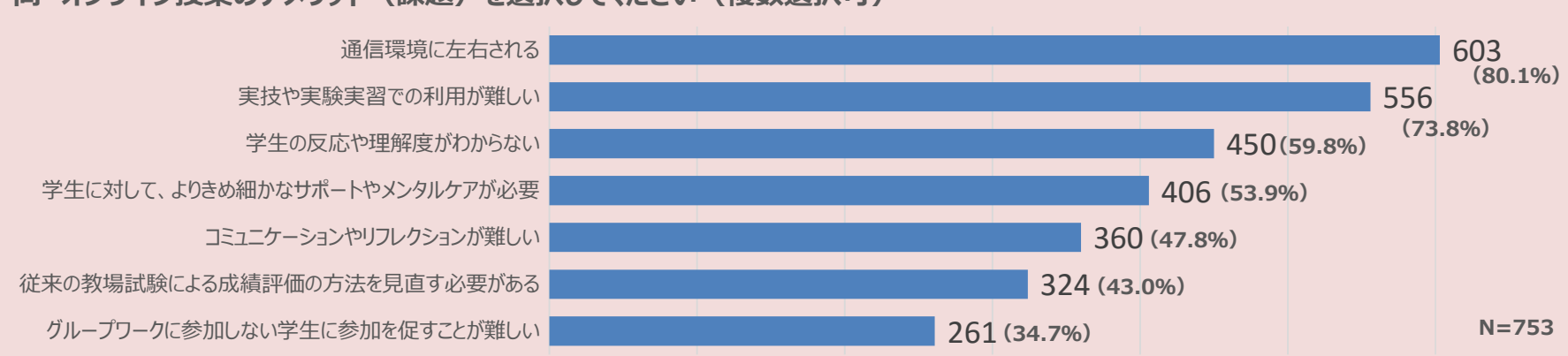
遠隔授業を実施した教員等へのアンケート調査結果②

問 オンライン授業のメリットを選択してください（複数選択可）



その他の回答：ハラスメントが起こりにくい、現時点では感染予防、メリットと評価すべきでない、個別に学生に対応する必要があるときは、むしろ容易である 等

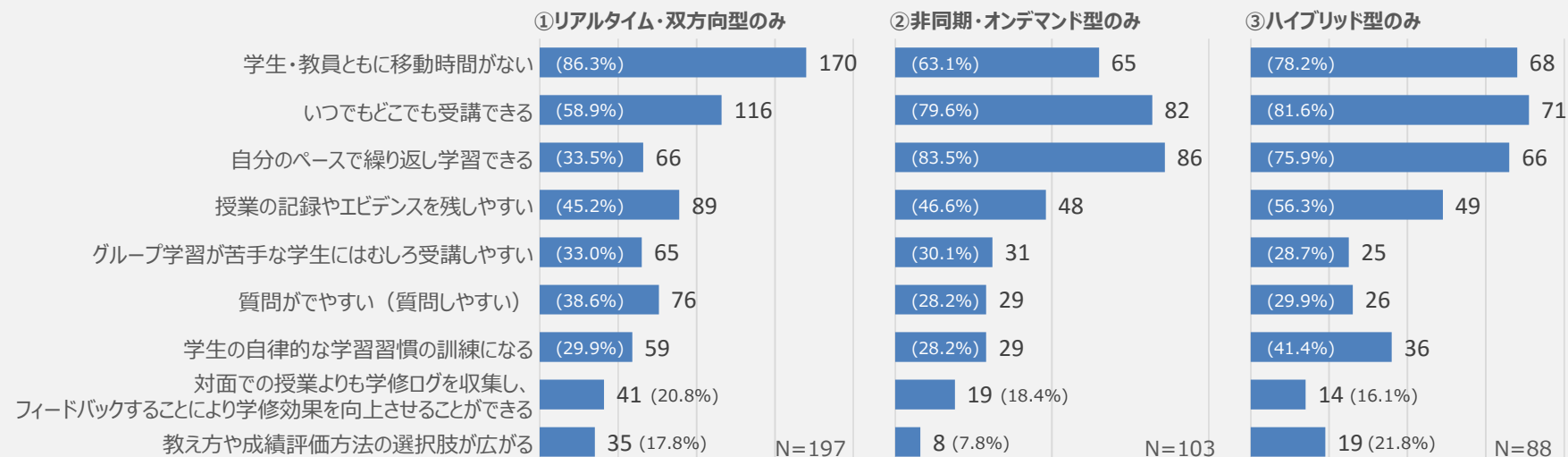
問 オンライン授業のデメリット（課題）を選択してください（複数選択可）



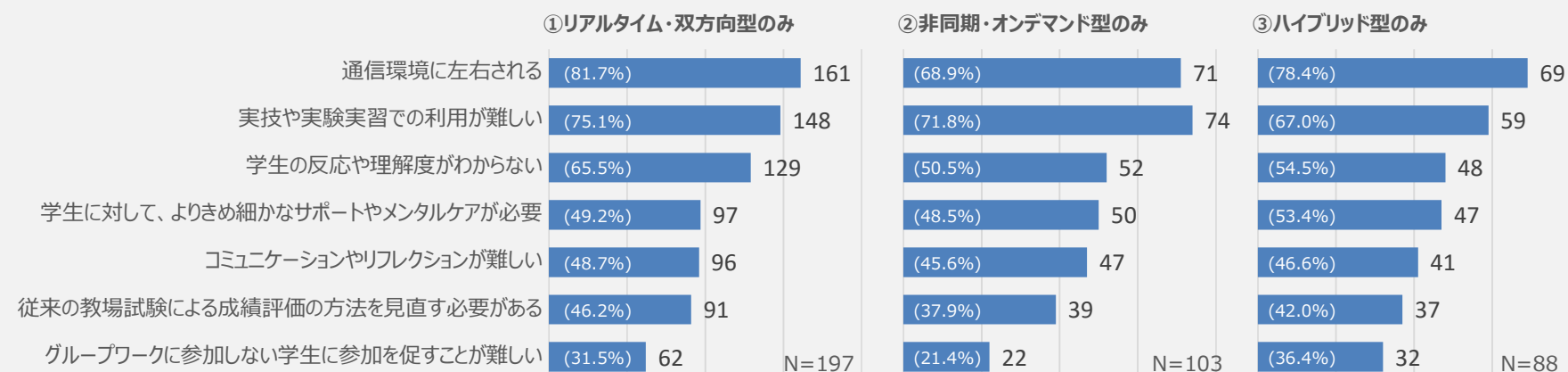
その他の回答：学生間の理解度の差が大きくなった、授業以外の対応（ネット環境などのトラブル）に時間がとられる 等

遠隔授業を実施した教員等へのアンケート調査結果③

【実施手法別】問 オンライン授業のメリットを選択してください（複数選択可）

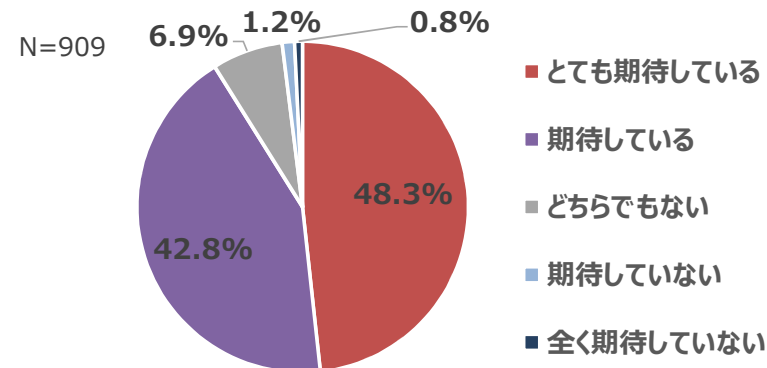


【実施手法別】問 オンライン授業のデメリット（課題）を選択してください（複数選択可）



ハイブリッド教育への期待と課題①

問 今後、大学等の高等教育において対面授業の良さとオンライン授業の良さを組み合わせた授業を展開していくことについて、あなたはどのように思いますか。



◆期待する声

- ✓知識をオンラインで得て、対面で演習をすることになるのではないかと。自分で知識を得るように仕組みと、思考力が伸びていくことを体験したので、演習も深いものになるのではないかと思う。
- ✓グループ分けなどオンラインだと簡単にできたり、話し合いやすかったりする場合もある。逆に対面では、直接でなければ見れない実習系は重要なことと思われる。それらを上手く組み合わせることで、より良い授業ができると考えている。
- ✓オンライン可能な講義科目は、オンラインに移行すれば、オンライン化が無理な科目に資源のある部分を集中できると思う。
- ✓オンデマンドに切り替えできる授業運営とすることで出張等の場合も休講や補講とせず、学生に迷惑をかけずに授業ができる。

ハイブリッド教育への期待と課題②

◆期待する声(続き)

- ✓オンライン授業により、県外在住の教員に依頼することがこれまでより容易になる。
- ✓オンライン授業で多様な学生（障害を持つ学生、心の病等を抱えている学生、スポーツ入学の学生）へのフォローができる。
- ✓留学など国外への移動が制限される状況下で、オンライン授業は国際化に直結する手法であると思う。
- ✓リカレント教育として、既に働いている人が、開講形態や開講時間がフレキシブルになることで、修士課程や博士課程で学びやすくなることを期待している。
- ✓デジタルでの授業の（ビッグ）データを分析し授業の改善に生かす。実験・実習など、まだデジタルでは十分に実施できないところに教育資源を重点投入。
- ✓大学間の単位互換の促進（特に地理的垣根を超えた地域の）に期待しています。
- ✓学生に「分散登校」させているので、同時に対面とオンラインをやらなければなりません。そういった場合のより良い授業方法についての実践の蓄積が欲しいです。
- ✓現在オンライン授業をせざるを得ない状況下で、様々な課題が生じていると認識しておりますが、裏返せばこれまでの対面授業における課題にも通じるものと感じています。これまで対面がベストと考えられた学習指導方法について、オンライン授業としての取り組みをどのように行えるかの挑戦として模索する必要があると感じています。

＜ハイブリッド教育として考え得る手法(例)＞ ※アンケート結果を基に便宜上分類したもの

◆ 授業別導入型

- 講義による知識提供はオンライン、学生のグループによる対話や活動などの演習・実習、実験は対面授業
- 学習到達目標や学習内容に応じて、科目ごとにオンラインでの学習を柔軟に取り入れるとよいと思う。
- 少人数では対面、大人数ではオンラインがメリットが多いように思う。

◆ 反転授業型

- オンラインで基礎知識の教授と課題に取り組んだ上で、対面によるディスカッション・グループワーク等のアクティブラーニング、ブレンディッドラーニング
- 対面授業を1～2回やり、取り組む課題を明確にした後、オンライン授業とし、途中1～2回対面、オンライン、最終講義は対面の形が良いのでは。

◆ 同時中継型

- 対面授業を基本に、遠隔地の学生が同時中継で参加（基礎疾患や障害のある学生が参加できる）
- オンサイトでの教員とオンラインでの外部教員とによるコラボ・ライブ授業、複数校をオンラインで結んでのワークショップ
- 対面とオンラインとを自由に学生が選択（ハイフレックス）

◆ ICTツール活用型

- 対面授業に端末も持ち込んで、生徒各人のQ&A・進捗・理解度などを同時並行的に確認しながら、インタラクティブに授業を進める。
- VR、ARを活用した実験・実習授業
- 対面授業を行いながらオンラインツールで小テストを実施しすぐにフィードバック

※この他、対面授業を原則としつつオンライン授業は補講や一時的に登校できない学生向け、海外など容易に会えない人を交えた議論など補完的扱いにとどめるべき、1年生には対面が望ましい、そもそもオンライン授業の必要性が不明等の意見あり。

＜主な課題＞

✓ 時間割の調整

- 1日のうちで対面とオンライン授業が混在しないよう時間割を作成することが困難 等

✓ 教員負担の増加、教員に対する組織的なサポート

- 事前準備、授業運営等。対面/オンラインの学生の出席管理、成績評価（不正対策を含む）。教員のICT活用スキルの向上、サポートスタッフ 等

✓ 多様な学生ニーズへの対応

- 学生毎に対面/オンライン授業の合う・合わないがある中での難しさ、障害のある学生への合理的配慮、プライバシー保護 等

✓ 学内インフラの整備（学習スペースやWi-Fi環境等）

✓ 学生の情報通信環境の確保（デジタルディバイド等）